

# 「建築と社会」研究会

対象地域：沖縄県那覇市栄町市場

フィールドワーク：2019年6月、9月

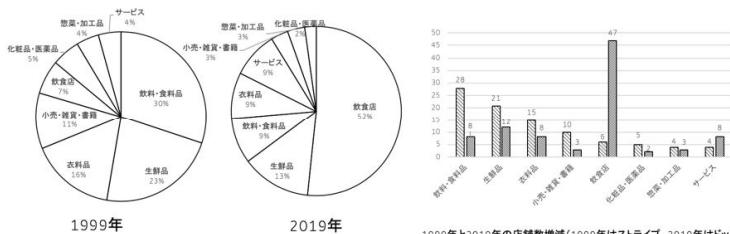


## 分析

### 市場の成り立ち

1) 店舗の数の増減と昼と夜の構成 2) 出身地の構成と特徴 3) 店舗の規模

・分析対象(1999年の昼92、夜4合計96店舗と、2019年の昼53、夜39、合計92店舗を分析)



1999年と2019年の店舗数増減(1999年はストライプ、2019年はドット)

- 建築計画の提案：メンバーの谷口の卒業設計案として、栄町市場の開発に関する計画を行なった。

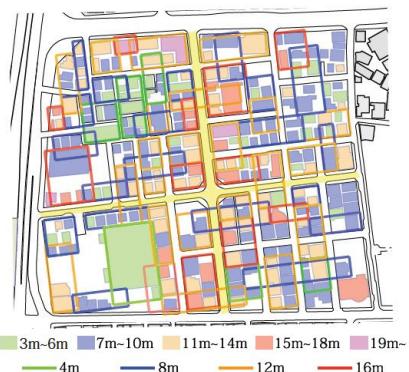
昼の店舗は 83%が、1人ないしは 2 人で営業している。例外的に 3 名以上 5 名、5 名以上で営業しているのは精肉店である。精肉店は市場の中では店舗数、従業員数ともに比較的大きな業態となっている。また栄町市場の精肉店から暖簾分けして営業している店もあり、ネットワークが構築されている。店舗数も多く、表 1 で明らかにした生鮮品 12 店舗のうち精肉店が 5 店舗、つまり半数を占めている一方で夜の店舗の規模は、1人ないしは 2 名で営業する店舗は 60%と全体の半数を超えており、3名以上 5 名、5名以上の店も 40%あり、7名で営業する店もある。⇒昼と夜の労働人口を単純計算すると、昼は 88 人、夜は 184 人、総数は 272 名ほども働いている。店舗数で比較すると夜は昼の 3 分の 1 ほどであるが、労働人口でみると、夜は昼の倍以上もある。

## □ 計画内容

### ① フレーム配置

葉脈のように入り組んだ都市の中に四角形に切り取られた敷地には綺麗な区画わりと高さ約 3m~20m の建物により街ができる。これらの要素を街のコンテクストと捉えフレームを形成する。これにより街を保存しながら計画していく。

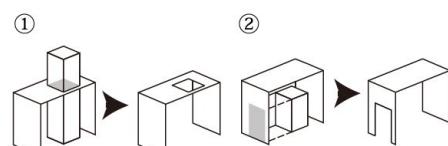
- 中央を分断する二本の道を軸としたフレームを配置する。また綺麗に割られた街区から形成された道は汚すことないように保ちながらフレームを形成していく。
- フレームの高さは 4m・8m・12m・16m の 4 パターンをモジュールにして配置する。また既存の建物の高さから引用する。



### ② 記憶の継承

フレームを配置すると同時に既存の街を記憶としてフレームに刻み込む。刻まれた記憶は様々な繋がりを誘発する要素となる。

- フレームに対して貫通した建物は平面がそのままフレームの穴となり開口ができる。
- 貫通しない建物は立面がそのままフレームにへと投影され開口となる。



### ③ 段階計画

4つの段階を設けて計画を進めていく。それぞれ建築の退化年数に基づいた順番で解体・改築・増築が進められる。その工事期間は大規模な再開発計画とは違い、今あるものを保存し時間をかけてコミュニティを再構築させるための期間と考える。また年代をまたいで架けられていくフレームには街の記憶が刻まれ、今の風景を未来にへと継承していく街のストラクチャーとして彩られ残していく。